

七月二十日、第二十六回参議院選挙があった。新聞には各党の公約が記されており、それを見た僕は、特に消費税についての減税を公約として掲げる党が多い印象を受けた。正直税金については、昔、百円玉を握りしめ初めて百円ショップに買い物に行ったあの日からあまり良い印象を持っていなかった。だから消費税の減税に、僕は賛成していた。

そんな中、母が新型コロナウイルスに感染し、僕たち家族は一週間の外出自粛を余儀無くされた。僕の家は育ち盛りの三人兄弟を擁しており、すぐに家の備蓄が無くなってしまふのは目に見えていた。日に日に不安や焦りは募り、心に余裕はなくなっていった。そのせいか、兄弟と喧嘩をすることが増え、家の雰囲気はだんだんと暗くなっていった。家の備蓄はあと少しになり、止むを得ず外に買い物に行くことも視野に入れ始めていた。が、ある日家にダンボール三箱分の生活支援物資が届くと共に、状況は一変した。ダンボールには食料品はもちろん、マスクやティッシュペーパーなど不足していたものがびっしり入っていた。久しぶりに僕達はお腹いっぱいになるまで食事を摂ることができ、満足感と安心で満ち満ちとした気持ちになれた。

母の症状が落ち着き、事が一段落した後、あの日のダンボールについて調べてみることにした。すると、あれは保健所から送られてきたものだということが分かった。さらに調べていくと、あの三つのダンボールは税金で賄われていたということが分かった。僕はそのとき、小さい頃によく見ていたアニメの主人公を思い出した。その主人公の、お腹の空いている人々に自らを犠牲にして食べ物を与える、そんな優しい姿が大好きだった。僕はそんなヒーローに強い憧れを抱いていた。今回の出来事を通して、それはおとぎばなしなんかではなかったのだと知れた。このとき初めて、税金ってすごいんだな、と思った。今までうっとうしかった税金に対してのイメージは百八十度変わった。

僕は今、消費税の減税について反対だ。買い物をするときや財産を相続するとき、手元に残るお金は減ってしまうかもしれない。だけどその分、困っている人を助けてあげられるかもしれない。困っている人から見ると、税金を納めている僕たちはヒーローに見えているかもしれない。「かもしれない」でも十分。ただそれを想像すると、当たり前買い物をして税金を納めることが特別誇らしいことに思った。誰かのヒーローになることも、案外悪くないかもしれない。